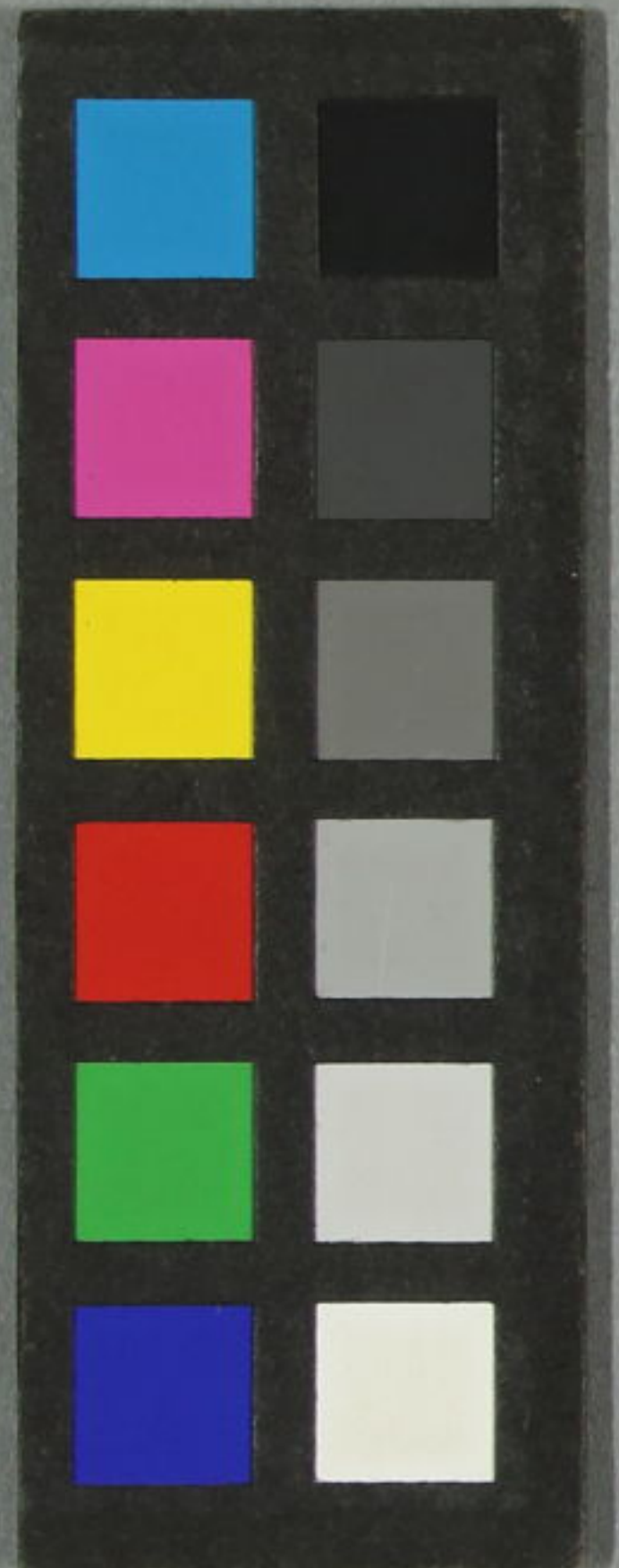


蘇弘還曆數句集

5
5656



門 八〇
號 5656
卷



物之能も、家名の後のまゝかゝるよあかぬ
すかせとて、んいあゝ揚あゝ庵のまゝか
を年還唐のまゝかゝるよあかぬ
難よりあゝるよあゝるよあゝるよあゝるよ
母あかすこの集あゝるよあゝるよあゝるよ
古今の可あゝるよあゝるよあゝるよあゝるよ

長春の隈隈をわたりて
 のこも新しき交りの深き
 名は心もまじりて
 かり〜〜〜

四谷三実の〜〜〜

京都三田山崎の里

芳律 延和 志

ね 娘 生



還曆自笑

あり〜〜〜からる然にわたりて
 火掃り白ふ屠蘇の志たり
 き〜〜〜の春をふくみ〜〜〜
 口のかるき〜〜〜旅の〜〜〜
 自由は空を〜〜〜又〜〜〜
 忙〜〜〜に秋の淋〜〜〜
 人の見〜〜〜ある男の〜〜〜
 新形の帽るに靴をき〜〜〜
 時雨か〜〜〜か〜〜〜ぬ〜〜〜
 あゆま〜〜〜衣笠山〜〜〜

繁 弘
 柳 生
 秋 谷
 藍 光
 香 雪
 桃 園
 四 梅
 楳 笑
 旭 峯
 三 好
 香 泉
 友 水
 花 遊

腰をぬれ秋の時の一興
 秋をすくすく忘れて秋を更
 鏡をかりし夕の光 月
 顔母の老木の影も 若かり
 老翁の首を音ゆかり
 眼を閉て去るらし神をふり
 遊むかたらしり 月の試
 醫師殿の車を常子二人引
 今も来さうにたり 夕立
 頃の影啼きさへ 暮り
 支の留守を淋しかり 娘
 口切りまの柔指も かり
 如嬌をすすむの けり
 清夏の鞠場の着法投てき

美静 雁山 東崖 豊湖 可笑 仙石 志好 相里 綿人 明架 保文 兔好 秋久年

所摺壁紙かゝる風ふく
 新倉の末てふさかぬ 月の秋
 顔子因士の相撲 けり
 恰女のよきもあしきも種あ
 生れつきたり 虫餅のふか
 菊に甘ぬ顔目溝の園あたり
 油メ本の音のゆりやか
 冬よりある末に花咲き
 相生の里より 暮る様系

一寸 芳州 田村坊 寔証 卜意 半濁 香畦女 芳律 執筆

文章各前文畧
 森久園やひし 遊り侍を
 能いおとに破の先をうけ
 因幡 棧外

今日からいたの〜月を花と友
 春うへに花魁の出る 姑うな
 舞勢の羽衣も波や春久の海
 老た本の見栄ありけり 好の花
 健な身よりや君か〜 花
 月花子あふ〜 逢ふ日やあた〜
 夕〜あふ〜 花
 海〜日 還るあり 春の山
 藤う〜 見る日 水 初 藤
 ちか〜 咲く 歳久の 香は 立 庵うな
 咲や梅 花は ちか〜 寂 ぬ 色
 ちや 冬を 花は ぬ〜 梅の 蒼〜
 今年より又新ら〜 菊かきぬ
 標〜 曆や ちか〜 日〜
 上 終 養 心 城 連 李 揚 水 音 旭 扇 琴 志 逸 馬 除 風 亦 自 相 換 甲 斐 社 樂

春より人々を又まよな〜
 七々の歌目出た〜 菜花主
 又〜 つからの友なり 百千鳥
 富士より山鳥〜 笑ふや 赤城山
 油〜 又を け 花は ぬ〜 水 仙 花
 十〜 之りの 花は ぬ〜 君か 奉
 六十〜 ち 赤た 蕾 ち〜 花
 神 垣 ち ち いたの〜 花
 遊〜 日 の花 ぬ〜 春
 見 通 ぬ〜 不二の 花 ぬ〜 小 春 空
 菊の 海 花 ち 花 ぬ〜 不 老 富 貴
 月 花 子 歌 ち 花 ぬ〜 今 年 上 山
 若〜 ち 力 花 ぬ〜 幼 子 日
 下 終 非 齋 紫 心 城 連 李 揚 水 音 旭 扇 琴 志 逸 馬 除 風 亦 自 相 換 甲 斐 社 樂

ひらきぬり 月一人 中かき 花の山
東まはれも 積り 氣樂よ冬 籍
室子 鶴池子 氣 なる 不 幸 一 一 一
号也 老 一 一 一 一 一 一 一 一 一
た 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
老 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
白 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
あ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
十 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
門 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
其 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
あ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
人 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
い 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

玉蕉 旭峯 静溪 東崖 如琴 遊雅 綿岱 卜意 四梅 香光 如海 香玲 山人 出壽

笑 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
年 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
改 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
老 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
来 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
危 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
危 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
其 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
秋 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
華 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
千 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
華 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

西涯 素沙 青藍 華屋 可祝 東園 藍光 龜好 茅州 起久唯 笠野 豊洲 松園 寔録

今年こそ勢の歌のさう〜めい
東廣く水も色もろく〜若み〜り

照云
半湖

お上勢

お上勢の上や来たつ勢の夢
初志は中勢の業こり〜お上上

梅克
左樂

福の巻

赤月園陰風道

六占の部

折勢を備〜色も莖〜中上
切る人子傘さ〜〜杜若、
懐も〜つ〜〜〜加茂境、
七占の部

お上勢のさき先ぬ〜〜小ね〜り
言所の勢を根〜〜〜
海老伝鯛物〜〜〜
春の〜〜〜
〜〜〜
竹の石や〜〜
〜〜〜
後の〜〜
〜〜〜

上毛 莖光
相模 保文
上毛 除風
相模 歌丸
相模 旭庵
上毛 芳菱
相模 風山
相模 具雪

裡紺の生海をえりて梅華 上 匠 其 人

十景の部

鳥居や柳の軒端梅の門 上 匠 非 高
鳴啼く果をくさるるの聲 其 人

或者十二景

若の心をあきらめかたけの如き花 甲 藤 其 堂

軸

祝言原

嬉しきよきふりて初懐代 判 若 喰 風

梅の巻

梅如尾有儀選

七景の部

秋の心を余愛ふまじく芭蕉哉 上 毛 莖 光
秋中の心余愛ふまじく月夕哉 下 毛 一 淡
幽玄の心余愛ふまじく生取哉 上 毛 上 毛 碛 花
幽玄の心余愛ふまじく枝の影や秋の雨 上 毛 上 毛 碛 花

藤 唄 中 筆 に 清 少 納 言 一 巻 見

去を来て秋の色あり初時雨 上 毛 旭 峯

野の心余愛ふまじく限りあり秋の聲 上 毛 白 麿

笠の心余愛ふまじく来りて雨 上 毛 煤 炭

日の暮れをかきし庭中須戸の浦 上 毛 明 架

海を乳く我を居るに梅 上 毛 森 尖

水鏡や心を照らす家の隅 上 毛 森 尖

春をけりて秋の色あり月と梅 上 毛 森 尖

秋の梅度の遠く程自れを帯り 上 毛 森 尖

冬を眺めて春を待つに春を帯り 上 毛 森 尖

七夕や秋を待つに秋を帯り 上 毛 森 尖

空の心余愛ふまじく空や梅の影 上 毛 森 尖

舟を渡りて梅の影を帯り 上 毛 森 尖

月を照らす秋の色あり 上 毛 森 尖

空を照らす秋の色あり 上 毛 森 尖

梅 北

横尾や来るものも眉作り
あし帯や着の海をさくり
ふきり一帯も雀も野鳥も
日影うらま日かげをさくり
あし帯や着の海をさくり
あし帯や着の海をさくり

女極十句

懐くぬいほくやんえん
初枝やさくもぬいほく
かろうほくやぬいほく
格也さくもぬいほく
あし帯や着の海をさくり
あし帯や着の海をさくり
あし帯や着の海をさくり
あし帯や着の海をさくり
あし帯や着の海をさくり
あし帯や着の海をさくり

おし帯や着の海をさくり
枕元 上毛 青莖

収巻

功高しし路まき獲る桑山
上毛 花児

軸

壽松弘老雅の還唐を

暮つ葉のあし帯をさくり
年 男 外 若 有 儀

壽の巻

富貴庵園茶選

七点と那

唄をぬいほくやんえん
本枯や吹去つるもぬいほく
降るもら沙汰は勝たず
江の風や 晴るもぬいほく
江子梅の山はぬいほく
時雨や 軒下風情の村

上毛 松 新
上毛 松 新
下毛 庫山
上毛 保文
上毛 蕉
上毛 新

若水子今年も終る白髪信濃 秋の
 秋の若や水子の舞の法信濃 信濃 秋
 梅の若の度うつ今ある日あり家上毛 四梅
 満汐子也信濃 子名の群る事 椹笑
 山風毛信濃 心くか常花を信濃 山笑
 生ぬるき吹井の水や椹の事 三笑
 名月や曇法信濃 の妙く家ねの氣 全
 信物も春沙法信濃 のくゆふ初花子 彦笑
 子の新子春勝子あり空り 秋久年
 原信濃 ともや松を接る作の氣 秋久年
 編信濃 う信濃 の濃う信濃 とあり信濃 雀信濃 須泉
 母の落子深きぬ夏行のく信濃 須泉
 柳信濃 う信濃 くる信濃 三日月深信濃 入信濃 入信濃 柳信濃
 逢の遊信濃 子心の始を流さ信濃 ともや 全
 い信濃 ともや遊信濃 名あり信濃 子傳信濃 ともや山 伊藤 全
 友

月の夕雪の初や花柳の友 上 友
 吹風う着る葉に雨をゆく秋の友 友
 暮る秋う信濃 早信濃 の信濃 暮る信濃 秋信濃 友
 梅落信濃 う信濃 くる信濃 の信濃 初信濃 友
 花子也信濃 新を春花も暮る信濃 う信濃 友
 友

慈心清志

後信濃 若く信濃 空の信濃 暮命信濃 の信濃 牡丹信濃 子信濃 あり信濃 家上毛 庫文
 暮る日の色信濃 あり信濃 赤き信濃 秋葉信濃 あり信濃 友
 梅信濃 子信濃 に信濃 初風信濃 雨信濃 一清信濃 あり信濃 友
 暁信濃 中信濃 花信濃 あり信濃 色信濃 に信濃 あり信濃 友
 色信濃 ともや信濃 初合信濃 ともや信濃 梅信濃 柳信濃 友
 夕信濃 ともや信濃 梅信濃 あり信濃 手信濃 あり信濃 秋信濃 の信濃 友
 推信濃 の信濃 葉信濃 に信濃 あり信濃 心信濃 あり信濃 中信濃 あり信濃 友
 月信濃 ともや信濃 梅信濃 あり信濃 心信濃 あり信濃 友
 暁信濃 ともや信濃 梅信濃 あり信濃 心信濃 あり信濃 友
 友

水香秋也江楓に清く澄く、露の、静の、静、
静、
静、

秋卷

色香ぬく〜に榮えり、秋の、花、上、毛、芳、州

軸

揚子江の尾の尾を藤を花を

あはれきり〜かきあやむ秋の、あ、あ、あ、
判、若、采、葉

通卷

半日庵芳律選

五五之部

中啼や木のるの月ありあやほ、
空よりそあや〜とき芥子の葉うり、
掃くわ〜さあほほあや月今、
病る人静き〜芭も木あり、
降き〜りのあ〜さ、
草静や人のあ〜り、
下、毛、松、地、
上、毛、采、馬、
上、毛、西、涯、
上、毛、一、水、
香、村

時雨もど破〜、
力、
信、濃、
一、丸

行水の底も〜、
秋の、色、
遊、雅

暮の葉も〜、
里、
至、静、
水

あや〜、
里、
小、橋、
静

あいの痛の中〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

あ〜、
甲斐の、
五、橋、
静

活菊の如き 水仙 上毛
若くは 山乃 上毛
苗子 共ん 黄名 小音 作 上毛
収巻 吳 主

雪ちりや 松へり けり せり 花 全

揚州 鹿主の 還唐の 歌を 祝す 則去 芳律
未長き 幸や する 達の 仲間 入

蓮類花之部 五葉 鹿 吳 羊 選

面白き 浮世 今日 花 上毛 如 熟
心より 廣く 花の あり 上毛 蔭 光
活竹を ちり けり 立や 花の 花 常陸 燭 南 亭

咲初る 存心 心毛 ありき 節り 上毛 把 筆
山雲 花や 感り ありき 節り 蕾 上毛 若 遊
雅き 花若 花の 白く 節り 信 濃 三 好
咲初る 中子 寂あり 州の 花 常 陸 梅 友
人心 ありき 日初 花 綿の 花 甲 斐 寸 空
待人 子 集り ありき 花 初き 上毛 琴 空 女
赤く 雨を 初り 花の 白く 紅 上毛 琴 月
華や 花の ありき 花の 小半 日 上毛 琴 月
あつ ありき 咲き ありき 花の 山 上毛 伯 生
けり 懸り 梅 ありき 花の 心 上毛 係 文
其 花の 言葉 花の 園の 上毛 蔭 光
咲き ありき 花 上毛 蔭 光
崖 山

空しくぬきぬき人の心や花の山
風山
暮ゆくしとくを梅のさきうさ
秋の白く事
秋の白く事

大室をさぬきく花の曇りうさ
秋の白く事
秋の白く事

秋あきく空しくし雨や花の
秋の白く事
秋の白く事

田舎の部 雙松軒 菱松遊
六甲の部
毛をやくれわかや相もけ
上毛 芦舟
啼たぬ秋の吹くうさ
上毛 有耕
骨の痛むらうさ
上毛 致壽
親目をたやく昔の春よ
上毛 秋月
行くあき二日よとさるる子
上毛 秋岱

秋の心 空しくし雨や花の
秋の白く事
秋の白く事

山をさぬきく花の曇りうさ
秋の白く事
秋の白く事

秋あきく空しくし雨や花の
秋の白く事
秋の白く事

揚州の尾まのそ原を秋ゆく
秋の白く事
秋の白く事

花鳥通巻 揚州産菱松遊
三五点の部

明秋の竹火晴し一室明り
山名中ふれし眼も清く初紅葉
四梅
涯山

あまの心をあまのこころに託して巨幅か
賞をわづらひてあまのこころに託して
保文
秋久年
龜島

君せ給ふと傳ふ菊の白く丸
梅生

各位の筆意を依りてあまのこころに託して
筆のうらやけを友に託して
秋久年の花
秋久
秋久

福福壽合点

天 上毛 四梅 地 〇七位 上毛 吳堂 人 〇七位 上毛 芳州

五客 上毛 芝人 上毛 藤原 上毛 孝慈 上毛 保文 上毛 孝順
通巻半日尾撰

天 〇七位 上毛 一庵 地 〇七位 上毛 吳堂 人 〇七位 上毛 孝慈

五客 上毛 吳堂 上毛 梅友 上毛 孝慈 上毛 保文 上毛 孝順
花鳥合点

天 〇七位 上毛 秋成 地 〇七位 上毛 芝人 人 〇七位 上毛 孝慈

五客 上毛 云好 上毛 伯生 上毛 吳堂 上毛 旭峯 上毛 孝順
花鳥通巻

天 〇七位 上毛 霞光 地 〇七位 上毛 寔海 人 〇七位 上毛 伯生

十客 上毛 旭峯 上毛 秋成 上毛 藤原 上毛 孝慈 上毛 保文 上毛 孝順
上毛 云好 上毛 琴月 上毛 秋成 上毛 孝慈 上毛 孝順

福の巻	収巻	伊藤	呉之堂
祿の巻	収巻	上毛	花見
壽の巻	収巻	上毛	芳州
通巻	収巻	伊藤	呉之堂
花の巻	収巻	秋後	芳叢
鳥の巻	収巻	上毛	芝人
通巻	収巻	上毛	風山
	以上		

附言還曆賀會及向集開巻は去れ五月六日七下相生町に於て執行者日産興の費向は東京牛込在戸塚村半日庵場發行の餘指山吹叢誌に掲載するを以て茲に畧す

明治三十三年六月

上野國山田郡相生町五丁目楊州庵社中

